

喫煙「大学デビュー」防げ

大学のキャンパスを禁煙化する取り組みが進んでいる。最近では高校生の喫煙率が下がり、大学入学後に吸い始めるケースが増加。受動喫煙の防止に加え、喫煙の「大学デビュー」を食い止めようと、各大学は知恵を絞っている。

(田村良彦)

進むキャンパス禁煙化

福岡県久留米市の久留米大御井キャンパス。約150の敷地には、「全面禁煙」と書かれたのぼりが、あちこちに立てられている。禁煙化の話が持ち上がったのは2010年。禁煙推進プロジェクト委員会が組織され、12年4月にまず市内の別の場所にある医学部



4月から全面禁煙になった久留米大御井キャンパスには、至るところにスリが掲げられている。(福岡県久留米市で)

保健師サポート ■ 専任職員見回り



禁煙に挑戦中の学生と面する久留米大御井キャンパスの健康支援センターの保健師(左)。右は真崎准教授

を10年には19か所、12年には7か所まで削減。ノースモーキングデーを設けるなど啓発を進め、喫煙場所の全面撤廃に踏み切った。学生の受け止め方は様々だ。たばこを吸わない4年生男子は「学校などが禁煙になるのは、時代の流れだとして以降、周辺の道路や

住宅地での喫煙が増え、住民から苦情が寄せられるようになった。大学側はキャンパス外の住宅街や道路も禁煙エリアに追加指定。専任職員を雇ってパトロールを行うなど対応に追われている。豊増教授は「喫煙率の高い上級生が卒業する1〜2年後には、禁煙指導の効果が顕著になっていくのではないかと話す」。

★ソフト面注力も
キャンパスの禁煙化以外に、喫煙の大学デビューを防止する対策や、禁煙希望者のサポートといった「ソフト」面に力を入れる大学も増えている。

読売新聞が九州・山口・沖縄の国立大学と医学部がある大学計15校にアンケートしたところ、建物は熊本大を除く14校が全面禁煙としていた。キャンパスを全面禁煙としているのは久留米大、産業医大、大分大の3校。医学部や付属病院などがある一部の敷地を禁煙している大学が多い。鹿児島大と琉球大は教育学部も禁煙としていた。

キャンパス全面禁煙化の動きは徐々に広がっている。岩手大は2008年4月、東北大は11年10月から実施している。信州大は16年4月からの全面禁煙を決定。大阪大も15年4月からの全面禁煙を目指す、と宣言した。

「吸わない」入学条件

◆大学の禁煙化の取り組み (国立と医学部のある大学)

大学名	建物	敷地	主な取り組み
山口大	○	△	ニコチンパッチの処方や保健センターの禁煙指導
九州大	○	※	禁煙支援プログラム。年2〜3回の禁煙推進イベント
九州工業大	○	—	保健センターに相談窓口。禁煙補助薬を用いたサポート
福岡教育大	○	—	喫煙場所を2004年時から半減。ポスターで呼びかけ
福岡大	○	△	相談窓口を設置。禁煙教室やノースモーキングデー実施
久留米大	○	○	付属医療センターや保健室で禁煙支援
産業医大	○	○	健診時に禁煙の意思を聞き取り意思があれば禁煙指導
佐賀大	○	△	啓発小冊子を作成。ニコチンパッチ処方
長崎大	○	△	職員に禁煙研修会。学生は必修授業などで啓発
熊本大	△	△	新入生に啓発冊子配布。希望者にはニコチンパッチ
大分大	○	○	新入生に啓発冊子配布。希望者にはニコチンパッチ
宮崎大	○	△	05年度から禁煙支援のための講演会や夜業を実施
鹿児島大	○	△	保健管理センターで禁煙配布。ニコチンパッチ無料配布
鹿児島大	○	—	—
琉球大	○	△	建物内にポスターなどを掲示し、周知を図る

○は全面禁煙、△は一部キャンパスで実施、—は未実施 ※九州大は医学部で14年1月から実施決定

喫煙しないことを入学条件にする取り組みも。熊本市の崇徳大薬学部は11年度から、入試の募集要項に「非喫煙者を対象とする」と明記した。

同学部の松倉誠教授は「卒業後は薬剤師として禁煙指導を行う立場であり、自分が吸わないのは当然。受験生の多くが未成年なので、それほど影響は特にならぬ」と話す。

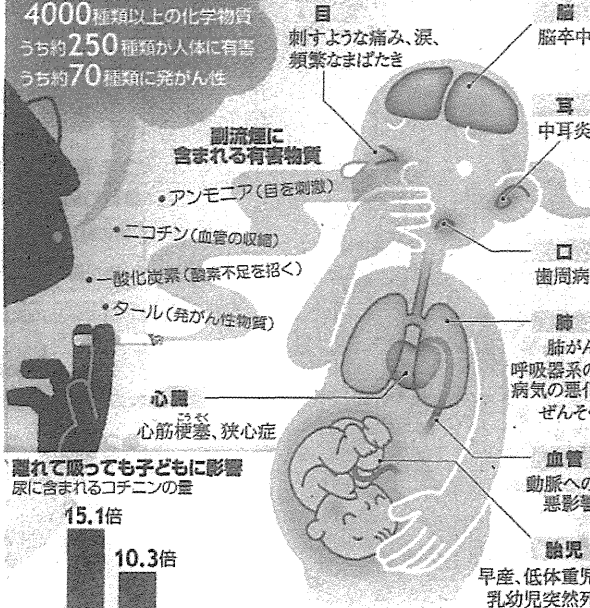
喫煙を見かければ厳しく指導する。現時点では入試倍率への影響は特にならぬという。

理な条件ではないはず」と話す。副則はないが、入学後に喫煙を見かければ厳しく指導する。現時点では入試倍率への影響は特にならぬという。

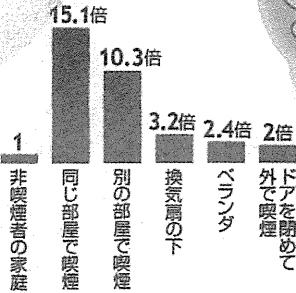
軽く考えてませんか? 受動喫煙のリスク

たばこの煙
4000種類以上の化学物質
うち約250種類が人体に有害
うち約70種類が発がん性

人体への影響(成人、子ども)



隠れて吸っても子どもに影響
尿に含まれるコチニンの量



子どもの前でたばこを吸うと……

赤ちゃんの突然死の割合	両親が喫煙 4.7倍
	1人だけ喫煙 1.6倍
肺炎・気管支炎	1.5~2.5倍
中耳炎	1.2~1.6倍

胎児への影響も深刻です。たばこを吸う妊婦が産んだ新生児の平均は、大人より大きくなりません。体が小さい分、体重当たりのニコチンが、大人より大きくなりやすいです。

今さら聞けない

子供の受動喫煙

ベランダの「蛍族」でも残る悪影響

たばこの煙にさらされる子どもの「受動喫煙」の危険性を示す様々なデータを根拠に、海外では規制強化が進んでいます。例えは英下院は2月、子どもを乗せた車の中での喫煙を禁じる法案を可決しました。吸わないのに受けてしまう、たばこの害をまよめました。子どもが受動喫煙を受けるダメージは、大人より大きくなりやすいです。体が小さい分、体重当たりのニコチンが、大人より大きくなりやすいです。

均体量は、吸わない妊婦よりも200倍前後少なくなります。ニコチンの影響で血管が縮み、胎児に栄養が届きにくくなり、シアン化水素が成長に欠かせないたんぱく質の合成を邪魔するのです。さらに「一酸化炭素で胎児の脳が酸欠状態になり、脳の成長にも影響を及ぼします。幼児期の知能指数が4~6ポイント低くなる」という報告や、注意欠如多動性障害(ADHD)の出現率が2~3倍になるとの報告が出ています。中国の大気汚染で、肺に入り込むほど小さな粒子(PM2.5)が注目されていますが、たばこの煙もまたPM2.5です。北京では1立方メートルのPM2.5が300マイクログラムを超える「嚴重汚染」の日が続き、不調を訴える子どもが病院に駆け込みました。日本でも産科医科大の和浩教授らが、全席喫煙可の日本の喫煙店内の空気を調べたところ、午後6時ごろの平均濃度が371マイクログラムと「北京並み」の汚染でした。車の運転席で吸った場合などは、全ての窓を10分開けエアコンで換気しても、車中の濃度は最大約3千マイクログラムになります。助手席の後ろ座席の方がより高濃度で

した。たばこ、ベランダや換気扇の下で吸っても、子どもは影響を受けます。家族がたばこを吸う家の子ども尿中のコチニン(ニコチンの代謝物質)の量は、吸わない家庭に比べ、「換気扇の下」で2~2.5倍、「ベランダ喫煙」でも2~4倍と多かったのです。喫煙後の服や、家具や壁などに残ったたばこ由来の化学物質を触ったり吸い込んだりすることこそ「二次喫煙」と呼びます。たばこの害に詳しい村松弘康・中央内科学クリニック院長は「健康影響を調べる研究は始まったばかりだが、細胞のDNAを傷つける可能性などの報告がある。化学物質がついた家具や服に小さな子どもが触っていることを知っている」と訴えます。

それでも子どものために、禁煙する親は多くありません。全国の母子10万組が参加する環境省の「エコチル調査」によると、「妊娠に気づいてやめた」母親は全体の13%(暫定値、以下同)。5%が妊娠中期でも吸い、父親の喫煙率も妊娠初期が47%、中期も46%と、ほとんど変わっていません。たばこの影響で健康を損なった

と思われる子どもたちを診てきた加治正行・静岡市保健所長は「これだけ体や知能にダメージを与え将来の健康も損われるたばこを子どもの前で吸うのは一種の虐待行為」と訴えています。

記者のひとこと

6年前まで喫煙者でした。煙や臭いに気遣っていたつもりでしたが、「つもり」に過ぎなかったのが、やめた今は分かります。日本は屋内喫煙を強く規制せず、分煙という独特の慣習が広まりましたが、解決策になりません。煙を心配せずすむ社会を後押しする法整備が不可欠です。(錦光山雅子)

自治体の取り組みも差があります。斎藤隆子・十文字学園女子大学教授は2011年、政令指定市と東京都内の全市区町村の児童公園の灰皿の有無を調べました。質問に答えた190自治体(指定市の行政区を含む)のうち、2割が「灰皿が置かれた児童公園がある」と回答。8割は禁煙の表示がありませんでした。都内23区は13区の公園に灰皿がありました。「灰皿があった24自治体のうち、昨年末の追跡調査で半分以上が撤去。声を上げることが大事です」

研究成果の刊行に関する一覧表
書籍

発表者名	論文タイトル名	書籍名	ページ	出版社	出版年
大和 浩	タバコ関連疾患	内科学第10版	2352 - 2354	朝倉書店(東京)	2013
大和 浩	タバコの科学	歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック	2 - 3	医歯薬出版(東京)	2013
大和 浩	職域と家庭環境の喫煙状況と禁煙支援		88 - 91		2013
大和 浩	職場の喫煙対策、快適な職場環境の形成	産業保健マニュアル	136 - 137	南山堂(東京)	2013
大和 浩	禁煙・たばこ依存・受動喫煙	産業安全保健ハンドブック	810 - 811	公益財団法人労働科学研究所(東京)	2013

雑誌

発表者名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
大和 浩	受動喫煙による障害と受動喫煙防止法・条例による効果	日本臨牀	71(3)	464 - 468	2013
大和 浩	受動喫煙防止対策と禁煙支援	公衆衛生情報	42(11-1)	21 - 26	2013
大和 浩	わが国の受動喫煙対策に関わる法改正の動きとその課題	循環器専門医	21(2)	350 - 355	2013
大和 浩	タバコ煙のPM2.5としての有害性とその安全対策	呼吸	32(11)	1028 - 1035	2013
大和 浩	特集 喫煙対策はどうなるのか 世界各国とわが国の喫煙対策,現状と今後の方向性	健康開発	18(2)	14 - 23	2013
大和 浩	職場の受動喫煙防止対策にかかわる労働安全衛生法の改正の動きと職場での喫煙対策の取り組み	労働衛生工学	52	31 - 36	2013
Yamato, H. et al.	Designated Smoking Areas in Streets Where Outdoor Smoking is Banned	Kobe Journal of Medical Sciences	59(3)	93 - 105	2013
大和 浩	職場における喫煙・受動喫煙対策	保健の科学	55(9)	623-628	2013
大和 浩	産業医学と喫煙対策	産業医科大学雑誌 特集号「産業医と労働安全衛生法四十年」	35	133 - 140	2013
大和 浩	職域の喫煙対策の現状と未来	産業医学レビュー	25(4)	219 - 238	2013

その他

大和 浩	PM2.5から考えるタバコの害	少年写真新聞 小学保健ニュース		2 - 3	2013
大和 浩	オリンピック成功に必要な屋内の全面禁煙化！！	STOP受動喫煙新聞		2 - 3	2013

